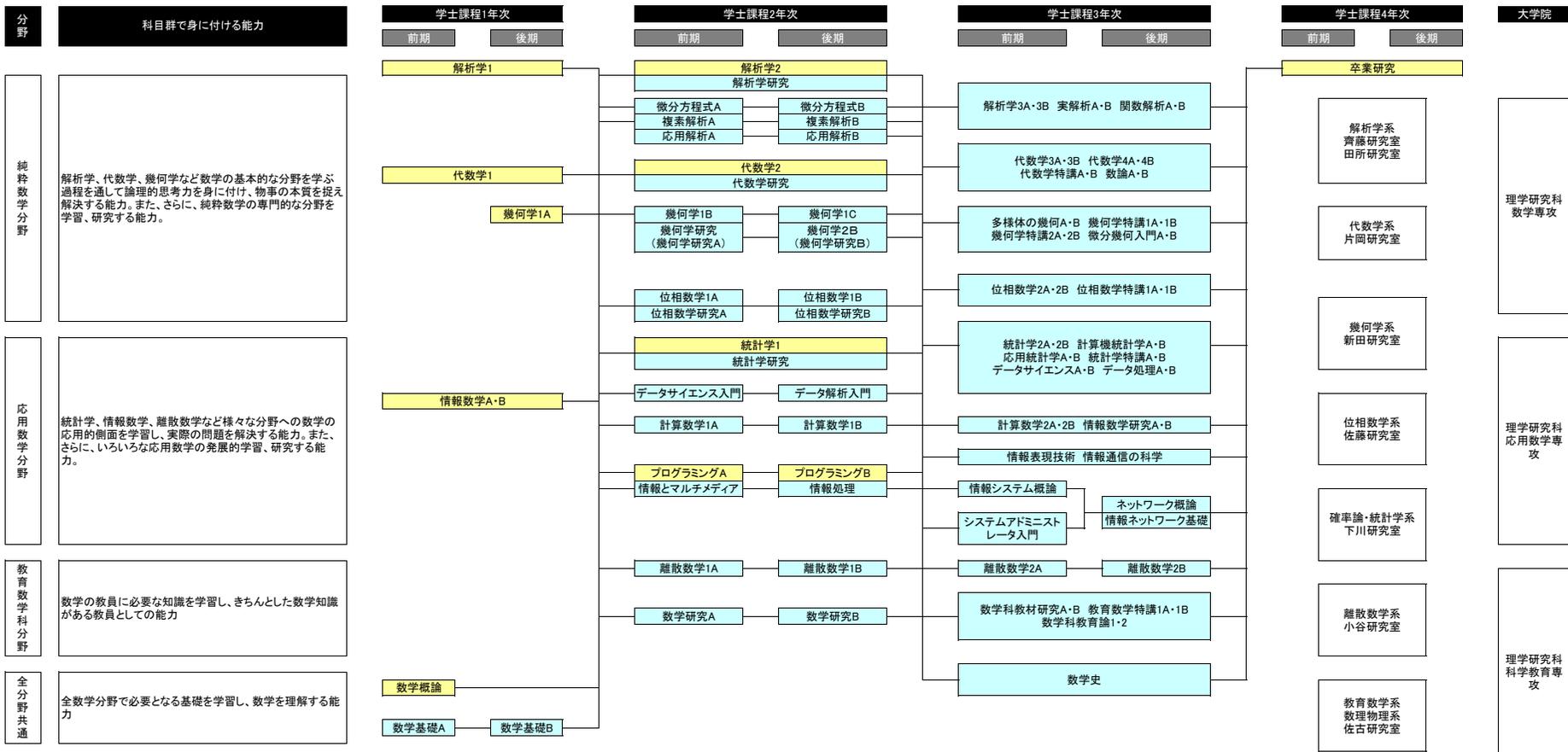


人材育成に関する目的
我が国は、科学技術の創造により関連の発展と国際貢献を目指しており、科学技術発展の基礎となる理学は、益々その重要性を増していく。理学部第二部では、理念である本学創設以来の「理学の普及と実力主義」に向かって、理学部第一部と緊密に連携を取りながら、夜間の時間帯に充分な基礎学力の上に高度な専門知識を身に付け、豊かな教養に裏打ちされた強い倫理観と豊かな人間性を持った人材を育成する。
数学科は、社会人、勤労学生などを含む多様な学生たちに勉学可能な環境を提供し、我が国唯一の夜間数学科としての使命を果たすとともに、確実な数学的学力と柔軟な応用力をもち、実務、研究、教育などにおいて社会的要請に応える人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー
卒業認定に関しては、建学以来の伝統である実力主義の伝統を堅持する。理学部第二部の学位授与方針の下、所定の期間在学し、所定の単位を修得している学生で以下の知識と能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学士(理学)の学位を授与する。
1. 「基礎科目」、「専門科目」の履修を通して、高等な現代数学に関する専門的知識。その知識の修得課程に必要な優れた洞察力や粘り強い論理的思考力、及び問題解決力。加えて、演習や卒業研究ゼミを通して自らの数学を記述・発表するための表現力、及びコミュニケーション能力。
2. 一般教養科目の履修や、様々な境遇の学生とのコミュニケーションを通して身につく、多様な価値観を尊重できる豊かな人間力と高い倫理観。また、数学を学ぶ意義を理解する能力と、社会、文化、人間、平和、地球環境、国際性等の観点から科学の役割と責任を論じる能力。
3. 他学部科目や大学院科目の先行履修などを通して、習得した専門的な知識と技術をより深めようとする探究心。また、根本的な問題に対峙した際に、修得した数学的精神を活かし、創造的で自由な発想の下、専門領域を超えて主体的に問題を深く探求する能力。

カリキュラム・ポリシー
1. 建学以来の伝統である理学の普及と実力主義の理念に基づき、1年次の「基礎科目」に開門制度を設け、真に数学力を身に付けた学生のみを進級させる。さらに、3年次の終わりに卒業見込判定を行い、所定の単位を修得している学生のみを卒業研究ゼミに配属する。また、高度な専門知識を身に付け、それを説明できる表現力やコミュニケーション能力を養うことを目的として卒業研究ゼミは必修とする。
2. 多様な目的意識を持つ学生、及び就職や進学などの多様な進路先を考慮し、純粋数学から応用数学にわたる幅広い分野を網羅した教育課程を編成する。さらに、その各々の専門分野においても基礎理論からアドバンスな内容まで学修できるよう多彩な講義を十分に提供し、多様な学生のニーズに応える。
3. 社会人学生を考慮して、必修科目は複数設定し、その一部は6限以降に開講するなどして、無理なく履修できる時間割を整備する。
4. 数学科教員および情報科教員志望の学生のために、中等数学やその教育課程を学修できる科目や情報科学を学修する科目などを含めた教育課程を充実させるとともに、教員志望者に対応した卒業研究ゼミを提供する。また、教職課程を履修しても4年間で卒業できる教育課程を編成する。
5. 現代社会における多様な価値観を尊重できるような人材を育成するため、専学を含めた一般教養科目を所定の単位数必修とする。また、単に高度な専門知識を習得するだけでなく、それをいろいろな形で表現できるようにするための一般教養科目を開講し、豊かな人間性と魅力ある人材を育成する。さらに、一般教養科目については他学部とも連携し、語学などのクラス指定科目を除き、他学部の科目も履修できるようにする。
6. 高校数学から大学数学への距離感を縮め、よりスムーズに高等数学を学べる状態に到達できるような科目を開講することで、転学部や編入学、シニアの学生などの負担を軽減し、学習意欲を維持させる。
7. 1年次開門科目と2年次の必修科目に付随して、学生自ら問題発見力、問題解決力を養うためのアクティブラーニングを目的とした演習の科目を開講する。



二次にある科目は二次以上で履修するものとする。
同様に三次の欄にある科目は三次以上で履修するものとする。

必修科目 選択科目